別紙様式1

熊野町教育委員会教育長　様

平成28年度　学校評価表（　計画　・　中間　・　最終　）

【　4月末　・　11月末　・　3月初旬　】

学校名（熊野町立熊野第一小学校）

a 学校教育目標	成長の実感	b 経営理念 ミッション・ビジョン	自ら学んで，豊かな心とたくましい体，確かな学力を身につけ，ふるさとの伝統と文化を尊重し，自らの夢の実現に向けて努力を続ける子供が育つ学校をめざす。

評価計画（4月末提出）						自己評価					学校関係者評価				改善方策	
	c 中期経営目標（3年後を見据えて）	d 短期経営目標（今年度）	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g目標値	h達成値 10月	h達成値 2月	i＝h/g 達成度	j評価 A～D 4段階評価	k結果と課題の説明（短期経営目標についての評価結果）	l 自己評価に関する評価（関係者評価者の合計人数） イ 適正	ロ 不適正	ハ 分からない	mコメント	10月	2月
確かな学力	主体的に学習に取り組んで，基礎的・基本的な知識や技能を習得させ，思考力・表現力を高める。	基礎的・基本的な知識や技能を習得させ，活用力を向上させる。	放課後の学力補充日を設定して個別指導する。 国語，算数，理科において，学力調査結果の課題をふまえた授業改善に取り組む	熊野町学力調査の正答率	全国平均の105%以上	国語100 算数106 理科104	20教科中10教科が105%をこえた。	1.004	A	○熊野町の学力調査では，6学年20教科で，10教科が全国平均正答率を105%上回った。特に3年生・5年生・6年生で大きく上回った。日頃の授業改善の成果が見られ始めている。	5			発達段階に応じた指導を行っていることが児童の積極性を高め，学力の向上につながっていると感じた。 やる気が学力の伸びにつながっていると思う。 30点以下の児童の減少のために，個の成長を見ていくとよいと思う。	・熊一小授業スタンダードに基づいて，主体的に学ぶ授業づくりの追究。 ・くまチャレタイム，さよなら問題の着実な実施。	・熊一小授業スタンダードに基づいて，主体的に学ぶ授業づくりを全教職員で継続していく。 ・多様な問題にふれさせることや，学習の定着を図るために問題を多く解かせるために，がん熊タイムを月曜日（国語）金曜日（算数）に変更した。来年度も継続して行う。
		家庭学習を習慣化させる。	未提出者児童への個別指導の実施や，家庭学習の取組状況を随時保護者に知らせ，連携を図る。	家庭学習を提出する児童の割合	98%以上	5月 95.4% 7月 96.2%	11月 96.5% 2月 97.1%	0.991	B	○学級ごとに様々な取組を行い，徐々にではあるが成果が上がってきた。全体では98%を越えられなかったが，半数のクラスが98%を越えた。	5			引き続き家庭との連携を図ってほしい。 個に応じた家庭学習を設定し，質を上げることも考えるとよい。	・家庭生活のリズムを指導する。個別の宿題を出すことも考える。家庭学習の習慣が定着している児童には，自主学習など家庭学習の充実を図らせる。	・宿題提出が定着していない児童には指導を繰り返すことはもちろんだが，宿題提出が身についている児童を称賛することで，全校児童の意欲を高める。 ・保護者連携については年度当初のPTA総会でも家庭学習の大切さを伝え，協力をお願いする。
豊かな心	思いやりの心や感謝の心と，礼儀正しい態度を育てる。	きまりの遵守	チャイムの遵守	チャイムと同時に授業を始める児童	90%以上	96.7%	97%	1.077	A	○朝会の内容を見直すことにより，1校時の始まりも守られるようになった。 ○10分休憩の過ごし方を継続指導してきたことにより，過ごし方を意識できてきた。 ●体育から特別教室移動時に，授業開始ができないことがあった。	5			授業間の10分は授業準備の時間であって休憩ではないことを話し，着べんに取り組むことで授業を充実させてほしい。	・10分休憩の過ごし方を指導する。 ・朝会の内容を見直す。 ・2分前行動完了を実施するように教職員全員で取り組む。	・10分休憩の過ごし方の徹底 ・2分前行動完了の徹底 ・体育時の着替えの時間の短縮の指導 以上のことを意識統一し，教職員全員で取り組む。
		礼儀正しい挨拶ができるようにする。	レベル5の挨拶の推進	レベル5のあいさつができる児童	60%以上	53.5%	56.4%	0.94	B	○学期毎に生活目標にあいさつを設定し，あいさつ名人やあいさつ運動等の取組を行ってきた。3学期までは自己評価が低かった児童も，2月実施のアンケートでは，「レベル5のあいさつができている」という問いに対して84.9%の児童が肯定的な回答をしている。 ●あいさつは向上しているものの，「立ち止まって」については，まだできていない。	5			丁寧に挨拶をする子が多くいる。繰り返し指導を行ってほしい。自信をもたせる指導を行うともっと挨拶をする子が増えると思う。 挨拶や跳そろえの取組を家庭へ広めるとよい。	・2学期には「あいさつ運動」「あいさつ名人」の取組を行い，レベル5のあいさつが当たり前にできる児童の育成を目指す。	・友達や先生からの肯定的評価を受けたら加点することで，自信をもたせ，あいさつ名人認定に意欲的に取り組めるようにする。 ・計画委員会と連携を図り，低・高学年ペアであいさつ運動を実施することで，積極的にあいさつに取り組めるようにする。
健やかな体	健康で安全な生活態度を育て，体力を高める。	新体力テストの課題克服	月一回外遊びロング昼休憩，週一回全員外遊びデーを実施し，運動意欲を高める。 体育の授業の導入で，継続的な運動を実施する。 運動委員会主催の「運動紹介タイム」を実施する。	新体力テストの結果で全国平均以上の種目「全96種目中，60種目以上」	60%	41%	61%	1.017	A	○ロング昼休憩実施により，外遊びが定着化し，遊びを通して体力を高めることができた。 ○12月に実施した立ち幅跳び・反復横跳び・50m走の測定では，ほとんどの学年で全国平均を超える結果となった。ダッシュやジャンプなどの瞬発力向上に繋がる動きを体育の授業や遊びの中に取り入れることで，記録の向上に繋がった。 ●全国平均より低い種目が多い学年もみられる。	5			体力は個人差があるので，個の伸びを評価するとやる気につながる。 皆勤賞を学期ごとに評価することは，希望をもてるのでよい。 「ゼロの日運動」に対する保護者と連携した効果的な取組が，家庭学習の習慣化や読書習慣の定着などに良い影響を及ぼしているようだ。 ロング昼休憩の意義を説明することで，よりよい効果を期待できると思う。 一点突破の取組が効果的であり，新体力テストの記録の向上や無欠席児童減少の歯止めにつながっている。	・瞬発力が向上するような取組を行う。 ・休憩時間の遊びや，2学期以降の体育の授業・準備運動に体力テストの課題を改善する運動を積極的に取り入れて，児童の体力の向上に努める。（ダッシュ等） ・体力向上に向けた設備の改善をする。（コースロープ等） ・2学期，3学期にミニ体力テストを行い，児童の伸びが実感できる取組を行う。	・運動の日常化を図るために，継続して外遊びを推奨していく。 ・運動好きな児童を育成するために，意欲的に取り組む運動（長縄・おにごっこなど）を全校で実施する。 ・体育の授業，体育朝会，運動紹介タイムの場で，体力テストの課題を改善する運動を積極的に取り入れる。 ・教職員による体力向上の技術研修を実施する。
		欠席日数の減少	学期ごとの皆勤賞の授与	皆勤賞（無欠席）180人以上	30%		2/20 現在 37.8%	2/20 現在 1.26	A	○皆勤賞を受賞するために，無欠席を目指している児童が多くみられた。 ○ゼロの日運動を推進することで，家庭でのアウトメディアの取組についての意識が高まった。 ●欠席児童の固定化がみられる。	5				・欠席率低下に向けた取組を昨年度 に引き続きアウトメディアの取組を中心に実施。特に，熊野町の取組である「ゼロの日運動」を家庭と連携して実施する。	・欠席，遅刻日数が多い児童への個別対応を行う。 ・生活習慣（睡眠時間・食事・メディアの使用時間）の取組を継続して実施し，家庭と連携して欠席率低下に向けた取組を行う。

j評価　A～D　4段階評価　　A：100≦（目標達成）B：80≦（ほぼ達成）＜100C：60≦（もう少し）＜80D：（できていない）＜60